

## 近代粵語遇效攝一等字の変遷

竹 越 美奈子

愛知東邦大学

## 近代粵語遇效攝一等字の変遷\*

竹 越 美奈子\*\*

### 提要

広州語が現在のような形になるまでにはいくつかの段階を経ている。中でも、19世紀以降 u, y, i の3つの高母音がともに二重母音化したこと (u>ou, y>œy, i>ei) は興味深い現象である。このうち u>ou の二重母音化は、主として中古の遇攝模韻と效攝豪韻に所属する字に起こった。19世紀に主として西洋人により出版されたいわゆる早期粵語資料はこの変化を如実に反映している。拙文はこれらの歴史資料における遇攝と效攝の発音表記の変遷について調査し、二重母音化の過程や条件について考察したものである。その結果、以下の結論を得た。1) 效攝豪韻は19世紀初頭には二重母音であり、その後遇攝模韻非牙喉音がいくつかの段階を経て二重母音化した。2) 文語層および外来語は白話層と変化の状況が異なる。3) 粵語の上位方言である広州語では、文語層と外来語は変化が遅い。これと対照的に、下位方言、例えば1900年の順徳方言では、文語層がまず先に二重母音化した。これは、下位方言では、文語層が上位方言(広州語)の影響を受けて先に二重母音化し、白話層はこの方言本来の発音を保持したためと考えられる。そして興味深いことに、同様の現象は現在の広州近郊の方言にも観察できる。

キーワード：早期粵語、高母音の二重母音化、外来語、文語層・白話層

- |                        |                                    |
|------------------------|------------------------------------|
| 1. はじめに                | 3.1.6. Devan (1858)                |
| 2. 現代広州語 u 韻字の変遷       | 3.1.7. Chalmers (1859, 1878, 1891) |
| 3. 現代広州語 ou 韻字の変遷      | 3.1.8. Ball (1883)                 |
| 3.1. 遇攝                | 3.1.9. Stedman & Lee (1888)        |
| 3.1.1. Morrison (1828) | 3.2. 效攝                            |
| 3.1.2. Bridgman (1841) | 3.3. 19世紀下位方言                      |
| 3.1.3. Williams (1842) | 3.4. 現代粵方言                         |
| 3.1.4. Bonney (1854)   | 4. 小結                              |
| 3.1.5. Williams (1856) |                                    |

\* 拙文は、第5回漢語方言研究会(2016年8月30日近畿大学)、第21回国際粵方言研討会(2016年12月11-13日澳門理工学院)、第6回漢語方言研究会(2016年12月17日神戸山手大学)、中古近代漢語ワークショップ(2016年12月24日浙江大学)、第8回漢語方言研究会(2017年8月31日近畿大学)での口頭発表がもとになっている。席上貴重なご意見をいただいた諸氏に感謝申し上げます。また遠藤光暁先生、陳暁先生には初稿に丹念に目を通していただき、ご意見を賜った。厚く御礼申し上げます。もちろん拙文の至らない点は全て筆者の責任である。

\*\* 愛知東邦大学経営学部

## 1. はじめに

現代広州語では、中古の遇攝一等模韻字（疑母を除く）と三等虞韻非組字は声母の違いを条件として韻母が[u]と[ou]に分かれ、[ou]韻は效攝一等字と合流した。<sup>1</sup> これは逆に言えば、現代広州語の[u/ou]韻の中古音の来源は主として遇攝一三等字（以下遇攝と称する）及び效攝一等字（以下效攝と称する）であるということである。（表1参照）

現存する最古の粵語の韻書は『分韻撮要』である。（以下、『分韻』）先行研究によれば『分韻』には種々の版本があるが<sup>2</sup>、筆者が見たものは道光5年（1825年）（封面による）吳郡虞学圃、武溪温岐石同輯による『江湖尺牘分韻撮要合集』（フランス国立図書館蔵）<sup>3</sup>である。この本では、表1の字は全て第12韻所収である。『分韻』第12韻所収字は平声23字、上声21字、去声25字の全69字であり、現代広州語では[u]か[ou]である。したがって、第12韻所収字は『分韻』から『粵音韻彙』の約120年の間に[u]と[ou]に分かれたことになる。<sup>4</sup>（表2参照）

19世紀の粵語文献に反映された音韻変化を全面的に研究した丁国偉（2007）、羅言発（2013）はともに、粵語が19世紀に3つの高母音の二重母音化（u>ou, y>œy, i>ei）を経験したことを指摘している。しかしながら、両者の結論には違いもあり、丁国偉（2007）は u>ou と y>œy の変化は i>ei に先行して Morrison（1828）ですでに始まっていたと主張しているのに対して、羅言発（2013）は3つの変化のうちで u>ou が他の二者に先行したと指摘している。<sup>5</sup> 両先行文献の粵語音韻史に対する貢献は大きいですが、いずれも主として字典などに記載されている標準的な発音を資料として使用した研究であるため、声母の条件および個別の漢字における詳細な違いについては不明である。拙文では、口語的資料を含む異なった性格の資料を利用し、各資料の性格の違いや個別の漢字や語彙の使用状況も考慮して、u>ou の変化が起こった時期とその要因、変化の条件について考察する。

## 2. 現代広州語 u 韻字の変遷

現代広州語のu韻字は、19世紀の広州語を記録した文献でもおおむね[u]と記載されている。<sup>6</sup>（表3参照）表3中の例外は以下の通りであるが、全体から見れば極めて少数で、体系に影響するものではない。（片カッコの数字は表3に対応）

- 1) “古” [kɔ] chocolate 知～辣 (Morrison 1828: CHO)<sup>7</sup>

<sup>1</sup> 以下拙文では、基本的に黄錫凌（1941）の音韻体系をもって現代広州語の音韻体系と考へ、適宜その他の文献を参照する。黄錫凌（1941）の時代にはほぼ現代広州語の音韻体系が出来上がっていたと考えられている。（張洪年 2003）

<sup>2</sup> 彭小川（1992）参照。

<sup>3</sup> この資料は矢放昭文先生よりご提供いただいた。この場を借りて感謝申し上げます。

<sup>4</sup> もっとも、これは第12韻に所属する字が同じ韻母（u）を持っていたと仮定した場合であって、もともと[u/ou]であったという考えも可能である。拙文の第4節参照。

<sup>5</sup> 両者の結論の違いは主として使用した文献の違いに起因するものである。

<sup>6</sup> 各文献はそれぞれ独自の表記法を採用している。拙文では、一律に国際音声字母で示す。なお、各表記法に対する推定音価は先行研究（張洪年 2016, 丁国偉 2007, 羅言発 2013, Parker 1880: 82等）に従った。

<sup>7</sup> Morrison (1828) にはページ番号がないので、ページ番号の代わりに章節の名称を記す。以下同。

- 2) “枯” [fou] ～炭 a soft sort of charcoal coals (Morrison 1828: GA)
- 3) “汚” [ɔ], [ou] (Morrison 1828: DIS, 品格類一)
- 4) “輔” [pou] (Bridgman 1841: xxv)
- 5) “汚” [ɔ] (Ball 1883: 17)

このうち1), 2), 3) はすべてMorrison (1828) に見られる。丁国偉 (2007) によればMorrison (1828) の発音表記には若干の不統一や矛盾があるが、u 韻に関する限りは上記の1), 2), 3) を除いておおむねuと表記されている。“古” はchocolateの訳語の1)の場合以外[u]である。[u]が“古”の当時の一般的な発音であって、外来語の訳語にのみ現れる[ɔ]は、何らかの別の要素を反映していると思われる。<sup>8</sup> “枯”は2)の例を除いて他は全て[fu]で、“汚”も7例が[u]で、[ɔ]と[ou]は3)の1例ずつである。4)の“輔”の現代広州語音は[fu]であるが、この字は文語にしか現れない。<sup>9</sup> 5)の“汚”[ɔ]についてはボール自身が、第2版に、この字は[u]と読むこともあると付け加えている。(Ball 1888:17) 19世紀の下位方言を記録した文献の表記でも、現代広州語で[u]のものはすべて[u]である。(表4参照) これらの字は現代粵方言でも広く[u]と読まれる。<sup>10</sup> 以上、現代広州話で[u]韻に属する字は、19世紀の広州語資料、方言資料、現代方言でおおむね[u]韻に属しており、19世紀初頭の発音も[u]であったと考えるのが妥当である。

### 3. 現代広州語 ou 韻字の変遷

#### 3.1. 遇攝

現代広州語[u]韻に比べて、[ou]韻の状況は複雑である。中古遇攝字は19世紀広州語では、[u]と[ou]が混在している。これは遇攝がこの時代に段階的に二重母音化したことを反映したものであろう。(表5参照) 以下、個別の文献の状況を見てみよう。<sup>11</sup>

##### 3.1.1. Morrison (1828) (表5-1参照)

Morrison (1828) の発音は基本的に[u]か[ou]であり、u>ouの音韻変化を反映したものである。いくつかの字は2種類の発音が記されており、この時代両方の発音が容認されていたようだ。中でも“布母”には語彙による使い分けがあって興味深い。文語層と外来語では[u]で、白話層では[ou]である。

- “布” 外来語：custard pudding 牛奶～顛 [pu] (GO), milk pudding 牛乳～顛 [pu](飲食類全)；  
白話層：a cloth bag ～袋 [pou] (BAL)
- “母” 文語層：Mangtsze’s mother 孟～ [mu] (NEV)；  
白話層：a sow 猪～ [mou] (CHU)

<sup>8</sup> 張洪年 (2016: 339)は、Morrison (1828) の発音表記は基本的には広州語音であるが、若干の方言的要素が混ざっていると分析している。

<sup>9</sup> Yue (1972: 425)。

<sup>10</sup> 詹伯慧+張日昇 (1987, 1994, 1998)。

<sup>11</sup> 以下の表で、同一文献に同じ漢字が2回以上あるのは、同文献で同一字に2種類以上の発音が記されていることを示す。

外来語と文語層の[u]は古い層の残存で、白話層は新しい層の発音を反映していると考えられる。

以下、個別の字に属すると思われる問題について考察する。並母の“菩”は“菩薩”という単語で登場し、そのうち8回が[p<sup>h</sup>ui]で、1回が[p<sup>h</sup>u]である。これは体系的な変化というより、この字が“菩薩”という語の中で使われていること（本書の中ではそれ以外には登場しない）によるものであろう。端母の“肚”は[t<sup>h</sup>ou/t<sup>h</sup>ɔ]の2種類の表記があるが、この字は11回出現し、そのうち[t<sup>h</sup>ɔ]は“腸肚 intestines”という語の場合のみなので、誤植と思われる。<sup>12</sup> 心母“訴”に[su/sou/sɔ]の3種類の表記がある理由は不明である。“鬚”に[su/su]の2種類の注音がある理由は不明であるが、この字が“特字”であることと関係があるかもしれない。<sup>13</sup> “都”にも[tu/tou]の2種類の発音があるが、この字は現代広州語でもこの2種類の発音がある。<sup>14</sup>

### 3.1.2. Bridgman (1841) (表5-2参照)

Bridgman (1841) は総合的な広州語の教科書である。その音韻体系はよく整理されている。本書を編集するにあたってブリッジマンが『分韻』を参考にしたことはよく知られている。<sup>15</sup> 《分韻》と当時の広州音について、Bridgman (1841: ix) は以下のように述べている。

Probably in more than one half of the words forming this order, the *ū* ([u]) is exchanged for *ō* [ou]; and many seem to range somewhere between the two, giving the sound of *o* in *so*, *no*, &c., so that it is difficult to determine which of the letters *ū* or *ō* should be used. In some cases, the sound of the vowel will be heard approximating to the *ū* by one ear, while by other persons the same word will be sounded as if it terminated in *ō*; most of the words, however, are uniformly pronounced by all persons ending either in *ō* or *ū*. (おそらくこの韻の半分以上の字は[u]から[ou]に交代している。そして多くは、英語の *so* や *no* の単語中の *o* のような、両者の中間のどこかの音のようである。したがって、*ū* と *ō* のどちらの記号を使うべきか決めがたい。ある人の耳には *ū* と聞こえるのに、他の人の耳には同じ語が *ō* で終わったように聞こえるということもある。

しかしながら、ほとんどの語は、一様に、だれもが末尾を *ū* か *ō* で発音する。)

以上の観察から、当時この韻の字はまさに変化の過程にあり、新旧の層が併存し、[u] と [ou] の中間の発音も聞こえていたようだ。ブリッジマンは迷いながらも実際にはおおかた[ou]を採用しているので、[ou]と発音する人が多かったのだろう。

表5-2で[u]と読む例には興味深い事実が観察される。“奴無母務”の4字には[u/ou]両方の発音があるが、いずれも広州語の音系を紹介する章では[u]であり（同書p.vii, xiii、本文中では[ou]）である。規範意識としては[u]だが、実際には[ou]と発音していたことの現れである。“魯蘇素”はいずれも人名、または書名中の用法（すなわち文語層）である。

<sup>12</sup> 丁国偉 (2007: 70) 参照。

<sup>13</sup> 表1の注37参照。

<sup>14</sup> Yue (1972: 414) 参照。

<sup>15</sup> もっとも、『分韻』には実に多くの版本が存在し、ブリッジマンやこの後に登場するウィリアムズが実際に見た『分韻』がどれなのかは実はよくわからない。高田 (2000) 参照。

“魯” [lu]人名 ～明善 (xxviii)

“蘇” [su]人名 ～頌 (xxix), ～轍 (xviii)

“素” [su]書名 黄帝～問二十四卷 (xxviii)

これらは旧発音の名残であろう。

Morrison (1828) に比べてBridgman (1841) およびその後の資料では、音韻体系が非常に整っている。ブリッジマンは中国人教師から中国の古典と韻書について学び、同音字表の考え方に基いて漢字の発音を記録し、その後の資料の編者もみなブリッジマンの書を踏襲したからである。反面、体系を重視するあまり、必ずしも実際の発音を反映しているとは言えない点には注意する必要がある。次にあげるウィリアムスはブリッジマンの同僚である。

### 3.1.3. Williams (1842) (表5-3参照)

ウィリアムスは先輩のブリッジマンの学識を尊敬していた。その上でブリッジマンの書より簡便で実用的な教科書を出版する必要性を感じていた。Williams (1842) はBridgman (1841) の注音システムを継承し、“無母務路”は広州語の音韻体系を紹介する表や漢字の紹介の章では[u]とし、本文中では[ou]としている。<sup>16</sup> これらの字が規範意識上では[u]であっても、実際には[ou]と発音されることが多かったことの現れである。Williams (1842:54) は『分韻』第12韻について以下のように述べている。

The termination *ū* (= [u]), in *kū* of the 12th order, in more than half of the words placed in it, is exchanged for *o* [ou]; an attempt appears to have been made by the compilers of the work to discriminate between the two; in some words the distinction is well marked between the *ū* and the *o*, while in others, some doubt arises which way the word should be written. (第12韻“古”の[u]は、ここに属する半分以上の字が[ou]に交代している。本書の編者はこの韻を二つに分けてみた。[u]か[ou]か区別がはっきりしているものもあるが、どちらの注音をつけるか疑わしいものもある。)

『分韻』第12韻に属する字のうちの半分以上がすでに二重母音で、残りは変化の過程にあり、どちらの注音をとるかは編者によって決められたのである。二重母音化がいつせいに起こったのではなかったことがわかる。ほかに、同書で[u]の注音がとられているのは“盧魯蘇”であるが、いずれも国名や人名などの文語層である。

“魯” [lu] Lu state ～国 (102)

“蘇” [su] Su Yaupak ～友白 (76, 77)

“盧”<sup>17</sup> [lu] gourd 葫～ (67)

同書は文語と白話の区別を重視しており<sup>18</sup>、上記3例はいずれも文語を学習する章の例である。

<sup>16</sup> ただし、“務”は本文には登場しない。

<sup>17</sup> “盧”の当て字と思われる。

<sup>18</sup> 竹越 (2013, 2015), Takekoshi (2017) 参照。

当時は新旧の層が併存していたが、ウィリアムスは一般には新音を採用し、文語にのみ旧音を採用したのである。

### 3.1.4. Bonney (1854) (表 5-4)

Bonney (1854) は語彙集で、その音韻体系はBridgman (1841) やWilliams (1842) ほど整理されていない。遇攝の字はすべて[u]か[ou]であり、例外は“怒[nau]”(同書p.5) 1例のみであるが、広州語では「怒る」を[nau] (方言字“𪗇”) と言うので、これは訓読現象である。[u]と読む漢字のうち、“菩”(菩[p<sup>h</sup>u]薩) は固有名詞、“穌”(耶穌[su]) は外来語の音訳で旧発音の名残である。“都”は現代広州語でも[u]の発音もある<sup>19</sup> ので、これは個別的な問題である。

### 3.1.5. Williams (1856) (表 5-5 参照)

Williams (1856) は欧米人による初めての本格的なアルファベット順配列による漢字字典で、その後長く多くの粵語文献の編纂の規範とされた。この時代には遇攝の二重母音化はほぼ完成していたようで、『分韻』第12韻の代表字“無母務”さえも[ou]に書き換えられている。第12韻の説明でウィリアムスは以下のように述べている。(同書p.xvii)

12. *Kú, lò, as coo, cuckoo, lo, hoe, flow.* The compilers of the Fan Wan seem to have been unable to distinguish the characters under this final into the two terminations of *ú* [u] and *ò* [ou], and have combined them apparently because in the court dialect most of them ended in *ú*. Those beginning with *l, m, sh, and s* slide from *lú, mú, sú, shú, into lò, mò, shò, sò*, but under other initials there is no trouble in distinguishing them. (第12韻。 *Kú, lò*, 英語の *coo, cuckoo, lo, hoe, flow* のように発音する。『分韻』の編者がこの韻の字を *ú* (筆者注[u]) と *ò* ([ou]) の2つの韻尾に分けることができずの一つにしたのは、明らかに、官話ではその大部分が *ú* ([u]) で終わっていることによる。 *l, m, sh, s* で始まるものの発音は *lú, mú, sú, shú* から *lò, mò, shò, sò* になめらかに移動するが、その他の声母では何の問題もなく区別できる。)

当時遇攝の二重母音化はすでに相当進行していたので、ウィリアムスは『分韻』の編者が[u]韻と[ou]韻に分けなかった理由を考察している。また、上の記述から、ウィリアムスが韻母の二重母音化が声母を条件としていることに気づいていたこと、l-, m-, s-, sh- 声母は変化が遅く、単母音と二重母音の間のような音であり、その他の声母は変化が完成していたことがうかがわれる。

表 5-5 に見られるWilliams (1856) の音韻体系は非常に整理されたもので、ほぼ全部が[ou]である。例外は心母である。ウィリアムスは同書中で「[sou]韻と[su]韻は発音がそう変わらない」と述べている<sup>20</sup>。これは上記引用個所で、「l, m, sh, sで始まるものの発音は *lú, mú, sú, shú* から *lò,*

<sup>19</sup> Yue (1972: 414).

<sup>20</sup> The characters under this syllable (筆者注[sou]) and the 510th (筆者注[su]) are placed together in *the Fan Wan*, and their pronunciation does not vary much.(Williams 1856: 470)

*mò, shò, sò* になめらかに移動する」と述べていることとも矛盾しない。では、なぜ一部の心母（“穌蘇酥訴素”）だけを[u]に入れたのか。原因はわからないが、“穌蘇”の主要な用法がJesus“耶穌，耶蘇”[jesu:]であることと無縁ではないだろう。一般に音訳語は旧発音が残存することが多いからだ。ウィリアムスは体系を重視して本字典を編纂しており、“穌蘇”が旧音を保持していたので、これと同じ韻の字も一緒に一韻としたのではないだろうか。<sup>21</sup>

### 3.1.6. Devan (1858) (表 5-6 参照)

ブリッジマンとウィリアムスは学識の高い宣教師であり、彼らの編纂した資料は中国の古典や書面語も含んだ格式高いものであった。しかしその反面難解で、初学者の需要に応えたものとは言い難い面があった。このため、Devan (1858) のねらいは、香港に来たばかりの外国人の役に立つ実用的な語彙集であった。この本では外来語と固有名詞は旧音を反映して[u]、その他の字は[ou]となっている。

“布” [pu] pudding ～顛 (p.28)

[pou] pillow case 枕頭～ (p.20), sponge 水～ (p.21), table cloth 檯～ (p.23) 他類例多数

“普” [p<sup>h</sup>ɔ] Prussian ～魯士人 (p.8)

“菩” [p<sup>h</sup>u] Idol ～薩 (p.114, 120他)

[p<sup>h</sup>ou] rasins ～提 (p.30)

“路” [lu] Luke ～加書 (p.110)

[lou] road ～ (p.40, 68, 55他), way ～ (p.51, 53, 54他) 他類例多数

“蘇” [su] Jesus 耶～ (p.114他) 他類例多数

“普”が[ɔ]である理由はわからないが、この語が外来語であることと無関係ではないだろう。

### 3.1.7. Chalmers (1859, 1878, 1891) (表 5-7, 8, 9, 10参照)

Chalmers (1859) は簡明英粵辞典で、Chalmers (1878) とChalmers (1891) はその増補修訂版で、その修訂状況は音韻変化を反映している。[u]の注音が見られるのは唇音の一部と端母の“都”と来母の“蘆”と心母の一部である。そのうち、体系的な音韻変化の影響と考えられるは、唇音だけで、他は個別の字もしくは語彙の問題と考える。

“都”は三冊とも[tu]であるが、現代広州語でも[tu/tou]両方の発音がある<sup>22</sup>。表 5-9 に、いくつかの語彙の修訂状況を示した。“蘆”に[u]が現れるのは“葫蘆 (ヒョウタン)”という語彙の中のみで、Chalmers (1859) では[lou], Chalmers (1878) とChalmers (1891) では[lu]である。Chalmers (1859) の[lou]は間違いというより、当時両方の発音が許容されていたことの反映であろう。心

<sup>21</sup> それでも“塑”は“騷、掃、嫂”等效攝の字とともに[sou]韻に入れられている。なぜ“塑”だけが別の韻なのかはわからないが、Yue (1972: 418) によると“塑”[su]は文語層にしか現れない字である。詹伯慧+張日昇 (1987: 32) では入声の発音もあり、やはりよくわからない。

<sup>22</sup> Yue (1972: 414).

母の[su]も個別の字もしくは語彙に関係する現象である。3冊とも[su]になっているのは“紫蘇（シソ）、耶穌（イエス）、蘇木（スオウ、植物名）”における“蘇蘇”だけで、“𩚑蘇仔”（口語、baby）の“蘇”と“訴”は3冊とも[sou]である。“素”は前2冊では[su]だが、その後は[sou]と修訂されている。言うまでもなく、“蘇蘇”の重要な用法は“耶穌、耶穌（イエス）”であり、これがブリッジマン以来この2字が[u]とされてきた原因であろう。白話層“𩚑蘇仔”の“蘇”[sou]が、当時の発音である。

唇音の修訂状況は表5-10の通りで、Chalmers (1859) の[u]は版を重ねるにつれて[ou]に修訂されていくが、すべてではない。ほかに、唇音の発音に[u]が多いことは個別の問題というより音声学的な問題であろう。これは唇音の変化が遅かったという見方もできるが、声母が唇音の場合には円唇母音の[ou/u]の違いがわかりにくかったという理由も考えられる。

### 3.1.8. Ball (1883) (表5-11参照)

ボールは香港で生まれ育った英国人で、香港政庁で35年間通訳を務めた広東語の達人である。Ball (1883) は実用的な会話書で、収録字数は多くないが、常用語をカバーしている。遇攝は書面語・外来語も含めて現代広州語と同じくすべて[ou]で、当時日常語彙ではすでに[ou]の発音が一般的だったことがわかる。

“菩” [phou]Idols ～薩 (p.26, 56)

“穌” [sou]Jesus 耶～ (p.26他多数)

### 3.1.9. Stedman & Lee (1888) (表5-12参照)

Stedman & Lee (1888) の記述した言語はニューヨークの華僑の広東語で、中山方言の影響を強く受けている<sup>23</sup>。遇攝は現在の中山方言では[u]である<sup>24</sup>。興味深いことに、S & Lee (1888)では遇攝の発音は[u]が主流だが、[ou]の注音も若干見受けられる。そしてその多くは同じ字に[u/ou]の2種類の注音がある。これらの不統一は英語音訳や文語層に多くみられる。[u]韻は当時の中山方言（もしくはニューヨークの華僑社会で話された広東語）の発音の反映で、[ou]韻は広州語もしくは他の言語の影響かもしれない。

“布” [u] Black ～力 (109), Brown ～啣 (109)

[ou] Broadway ～律喊 (63), Brooklyn ～落倫 (63), Brown ～啣 (83, 103), cotton cloth 棉～ (97)

“部” [ou] 量词 一～ (159)

“租” [u] the rent 幾多～ (69他) (9例)

[ou] engage a room ～房 (153)

“霧” [u] foggy ～水 (15)

[ou] hazy 霞～ (131)

<sup>23</sup> Cheung (2006) 参照。

<sup>24</sup> 詹伯慧・張日昇 (1987)。拙文表8-2も参照。

これまで拙文では広州語の歴史文献の中で、外来語と文語層が保守的である事実を確認した。しかし中山方言がベースになっている本書では必ずしもそうとは限らず、両者が無秩序に混在しているのは興味深い。陳衛強 (2011:126-7) は、広州近郊の粵方言に1字両読の現象があり、白話層は方言本来の読音で読まれ、文語層は広州語の影響を受けていると述べている。保守的な発音と革新的な発音がどの層に現れるかというのは、上位方言と下位方言で違うのである。

### 3.2. 效攝 (表6参照)

效攝 (豪韻) の状況は単純で、歴史資料はだいたい[ou]である。表6には少数の例外があるが、いずれも個別の例外もしくは誤植と考えて差し支えない。Morrison (1828) の例外は、“老”[lɔ] (来母) と“好”[hɔ][hau] (曉母) で、両字とも同書に多く登場するが、その大部分は[ou]である<sup>25</sup>。Williams (1842) の例外は、“号”[hu] 1例であるが、この字は同書の他の場所では[hou]となっている。Bonney (1854) の例外は“劳老”(来母)、“造”(従母)、“掃”(心母)、“告”(見母) の5字 (いずれも[u]) だが、そのうち“劳老造”の3字は同書のほかの場所では[ou]である。Chalmers (1859) の例外は“冒”(明母) 1字だけだが、修訂版のChalmers (1878) では[mou]に書き換えられている。全体として、遇攝に比べて效攝は統一されていて、早期粵語資料ではおおむね[ou]である。

### 3.3. 19世紀下位方言 (表7-1, 2, 3, 4参照)

次に、19世紀の下位方言の資料を用いて遇攝と效攝の状況を考察する。理論上は4つの類型があるはずである。

- A類：遇攝と效攝がともに二重母音
- B類：遇攝は単母音で效攝が二重母音
- C類：遇攝と效攝がともに単母音
- D類：遇攝が二重母音で效攝は単母音

そのうち19世紀の下位方言の資料で確認できたのはA類とB類である。

A類 (表7-1) は最も現代広州語に近い状況、すなわち效攝も遇攝も二重母音の段階を反映している。B類 (表7-2) は遇攝の一部が単母音の段階を示している。このうち順徳方言の端組と精組の[u/ou]両読現象は興味深い<sup>26</sup>。(表7-3参照) 同書は、アルファベット順に同じ発音の漢字を列挙する方式をとっているが、編者は[t<sup>h</sup>ou]韻に、「土肚兔吐」は口語では[t(t<sup>h</sup>)u]と読む」と注記している<sup>27</sup>。つまり、逆に言えばこの4字の[ou]という発音は、文語層のものである。ほかに定母“屠”にも[t<sup>h</sup>u/t<sup>h</sup>ou]の両読が報告されており、文語層と白話層のちがひ

<sup>25</sup> 丁国偉 (2007: 34, 72) 参照。

<sup>26</sup> ボールは順徳音の特徴を紹介する項で、広州でouと読まれる字が順徳ではouとuになると報告している。(Ball 1900: 65)

<sup>27</sup> In colloquial 土, 討, and 肚 are t<sup>h</sup>u=[t<sup>h</sup>u], and 屠, 兔, and 吐, are t<sup>h</sup>u=[t<sup>h</sup>u]. (Ball 1900: 136) ただし、“土”の声母が無気音の理由は不明。

の可能性が高い<sup>28</sup>。また同書には豪韻字を[u]と読むという報告があり、<sup>29</sup> 豪韻の旧発音の痕跡である可能性がある<sup>30</sup> (表7-4)。当時の順徳方言で遇攝を[ou]と読むのは近隣の方言、おそらく広州語の影響で、[u]音はこの方言本来の層であったようだ。下位方言においては、白話層が文語層より保守的であることは、陳衛強 (2011: 126-7) の論述と一致する。前述のように、広州近郊の粵方言には文白異読現象が多くみられ、白話層はその方言本来の層を反映し、文語層は広州語の影響を受けている。

以上、19世紀広州語と下位方言の文献より、效攝は19世紀初頭の段階で二重母音であり、遇攝は19世紀を通じて段階的に二重母音化したことがわかった。遇攝の中では、唇音(幫組と微母)の変化が発音表記に現れるのが一部の文献で遅かった。

### 3.4. 現代粵方言 (表8-1, 2, 3, 4)

次に、現代粵方言について考察する。現代粵方言にはA B C D類すべてが存在するが<sup>31</sup>、そのうちC類とD類に属する方言は少数である。A類は最も先進の状況、すなわちBall (1883) 以降の広州語の類型を反映しており、B類はAとCの中間段階、すなわちMorrison (1828) からBall (1883) の状況を反映している。C類はどちらも単母音で、これは『分韻』以前の段階を示しているとも考えられるが、豪韻が中古音の推定音価\*auから単母音の段階を経ずに現在のようになつた可能性もあり、断定はできない<sup>32</sup>。D類の方言は複雑で、おそらく部分的に近隣の方言の影響を受けているのではないか。

## 4. 小結

以上の考察の結果、19世紀を通じて效攝は現在と同じ[ou]で、遇攝はこの時期に二重母音化が進行したことがわかった。大まかにいうと変化はMorrison (1828) で始まって、いくつかの段階を経てBall (1883) で完成している。個別の文字や語彙に関していうと、広州語では、書面語・外来語・固有名詞などに保守的な発音が残る傾向があり、これと対照的に下位方言では、たとえば1900年の順徳音では文語層が先に変化しており、上位語である広州語の影響を受けたものと思われる。声母に関していえば、遇攝の変化において唇音の変化が発音表記に反映するのが一部の文献で遅かった。これは音声学的な要因で、発音部位と関係があると思われるが、この仮説を検証

<sup>28</sup> ただし精母“做”[ou]が文語層の発音なのかどうかはわからない。

<sup>29</sup> 「豪韻端組“島逃袴”は[t(tʰ)u]と読む」(同書p.136), 「“討”は口語では[u]」(同書p.136), 「来母“牢”は口語では[lu]」(同書p.131)

<sup>30</sup> もっとも、效攝豪韻の中古音は\*auで、もともと二重母音であった。效攝豪韻は中古より主母音が変化しながらも二重母音でありつづけたのと、『分韻』の段階でいったん単母音になってから再び二重母音になったのと二つの可能性がある。

<sup>31</sup> データは詹伯慧+張日昇 (1987)、詹伯慧+張日昇 (1994)、詹伯慧+張日昇 (1998) による。

<sup>32</sup> 『分韻』の時に豪韻が単母音だと考える先行研究もある(たとえば彭小川 (1992) は\*u、劉鎮発+張群顯2003は\*oと推定している)が、両説とも矛盾がある。豪韻を単母音[u]と考えると“弧/高、古/稿、故/告”が同音になってしまうし、[o]と考えると『分韻』に[u]韻が存在しなくなる。現代粵方言に[u]韻の存在しない方言はない。拙文の4.小結参照。

するには他の高母音の二重母音化の現象 (=y>æy, i>ei) と声母の条件について調べる必要がある。

			『分韻』	Morrison(1828)	Ball(1883)	Ball(1900)	現在
広州	遇攝	文語外来語	12韻	u >	ou >		ou
		白 話	12韻	ou >	ou >		ou
	效攝	文語外来語	12韻	ou >	ou >		ou
		白 話	12韻	ou >	ou >		ou
順徳	遇攝	文語外来語				ou >	ou
		白 話				u >	ou
	效攝	文語外来語				ou >	ou
		白 話				u >	ou

遇攝と效攝は清代の韻書『分韻』では第12韻に属していた。彭小川(1992)は『分韻』第12韻の韻母を[u]と推定している。郁南(平台)方言で両韻が[u]であることは彭説の根拠の一つである。しかし劉鎮發+張群頭(2003:312)は、もし第12韻が[u]だとすると、同韻の“弧/高、古/稿、故/告”が同音になってしまうことから、彭説を修正して[o]としている。しかしながら、第12韻を[o]とすると、『分韻』に[u]韻がなくなってしまう。現代粵方言で[u]韻のない方言は存在しない。拙文は以下のように考える。『分韻』の時代、遇攝の発音はuかoかもしくは両者の中間であった。效攝はouかそれに近い音だった。ブリッジマンやウィリアムスが迷ったように、『分韻』の編者も迷ったあげく、<sup>33</sup> 遇攝と效攝を1つの韻にした。つまり、第12韻には[u]と[ou]あるいはその中間の音が混在していたことになるが、いずれも[u]で終わっているため、不自然ではない。またこう考えれば“弧/高、古/稿、故/告”の対立も意味を成す。『分韻』が2つの韻母を1つの韻にまとめた例はほかにもある。<sup>34</sup> その後遇攝の二重母音化はどんどん進行して旧音は容認されなくなり、1885年の『増輯字音分韻撮要』では“弧古故”と“高稿告”は別の韻に分けられた。

以上の考察は、粵語高母音の二重母音化という現象のほんの一端を示すことができたにすぎない。しかしながら、u>ouは単独で発生したものではなく、ほぼ同時期にy, iの他の高母音も二重母音化した。19世紀の粵語資料は量も多く質も高い。全面的に粵語高母音の二重母音化の歴史を明らかにすることを今後の課題としたい。

<sup>33</sup> ただし、效攝豪韻の中古音は\*auなので、これが郁南(平台)や1900年の順徳音のように一度単母音[u]になってからもう一度二重母音になったのか、単母音の段階を経ないで二重母音のままなのかはわからない。注30も参照。

<sup>34</sup> 彭小川(1992)は、『分韻』から帰納される韻母の数は現代広州語より3つ少なく、所属字数の少ない韻を編者が1つの韻にまとめた可能性があると指摘している。

## 参考文献

早期粵語資料 (年代順)

- MORRISON, R. (1828) *Vocabulary of the Canton Dialect*. Macao: The Honorable East India Company's Press.
- BRIDGMAN, E.C. (1841) *A Chinese Chrestomathy in the Canton Dialect*. 2nd edition.
- WILLIAMS, S.W. (1842) *Easy Lessons in Chinese*. Macao: Office of the Chinese Repository.
- BONNEY, S.W. (1854) *A Vocabulary with Colloquial Phrases, of the Canton Dialect*. Canton: Office of the Chinese Repository.
- WILLIAMS, S.W.(1856) *A Tonic Dictionary of the Chinese Language in the Canton Dialect* (『英華分韻撮要』) Canton: Office of the Chinese Repository.
- DEVAN, T. T. (1858) *The Beginner's First Book, or Vocabulary of the Canton Dialect*. Hong Kong: The China Mail Office.
- CHALMERS, J. (1859) *An English and Cantonese Pocket-Dictionary, for the use of those who wish to learn the spoken language of Canton province*. Hong Kong: The London missionary society's press.
- CHALMERS, J. (1878) *An English and Cantonese Dictionary, for the use of those who wish to learn the spoken language of Canton province*. 5th ed. Hong Kong: De souza & co.
- BALL, J. D. (1883) *Cantonese Made Easy*. Hong Kong: China Mail office.
- BALL, J. D. (1888) *Cantonese Made Easy*. 2nd ed. Hong Kong: China Mail office.
- STEDMAN and LEE. (1888) *A Chinese and English Phrase Book*. New York: William R. Jenkins.
- CHALMERS, J. (1891) *An English and Cantonese Dictionary, for the use of those who wish to learn the spoken language of Canton province*. 6th ed. Hong Kong: Kelly & Walsh, Ltd.
- DON, A. (1883) The Llin-nen variation of Cantonese. *The China Review* 11(4): 236-247.
- DON, A. (1884) The Llin-nen variation of Cantonese. *The China Review* 12(6): 474-481.
- BALL, J. D. (1889) The San-Wui dialect. *The China Review* 18(3): 178-195.
- BALL, J. D. (1890) The Tung-Kwun dialect. *The China Review* 18(5): 284-299.
- BALL, J. D. (1896) The Hong Shan or Macao dialect. *The China Review* 22(2): 501-531.
- BALL, J. D. (1900) The Shun Tak dialect. *The China Review* 25(2): 57-68, (3): 121-140.

中文

- 陳衛強 (2011) 『広州地区粤方言語音研究』 広州：暨南大学出版社。
- 郭必之 (2004) 「從虞支兩韻「特字」看粵方言跟古江東方言的連系」 *Language and Linguistics*. 5.3: 583-614.
- 黃錫凌 (1941) 『粵音韻彙 (重排本)』 中華書局 (香港) 1991年重印版 (初版1941年)。
- 張洪年 (1972) 『香港粵語語法的研究增訂版』 香港：香港中文大学出版社2007年 (初版1972年)。
- 張洪年 (2000) 「早期粵語裏的借詞現象」『語言變化与漢語方言：李方桂先生紀念論文集』 台北：中央研究院、319-335。
- 張洪年 (2003) 「21世紀的香港粵語：一個新語音系統的形成」『第八屆國際粵方言研討會論文集』 129-152。
- 張洪年 (2016) 「粵語上溯二百年：馬禮遜1815年的語音記錄」『漢語研究的新貌：方言、語法与文献』 香港：香港中文大學：319-348。
- 丁國偉 (2007) 『1828年至1947年中外粵語標音文獻反映的語音現象研究』 香港中文大學博士論文。
- 彭小川 (1992) 「粵語韻書《分韻撮要》及其韻母系統」『暨南學報 (哲學社会科学)』 4:153-159。
- 劉鎮堯+張群頭 (2003) 『清初的粵語音系——《分韻撮要》的聲韻系統』《第八屆國際粵方言研討會論文集》 206-223。

- 羅言堯 (2013) 『澳門粵語音系的歷史變遷及其成因』 北京大學博士論文。
- 詹伯慧 + 張日昇 (1987) 『珠江三角州方言字音對照』 香港：新世紀出版社。
- 詹伯慧 + 張日昇 (1994) 『粵北十縣市粵方言調查報告』 廣州：暨南大學出版社。
- 詹伯慧 + 張日昇 (1998) 『粵西十縣市粵方言調查報告』 廣州：暨南大學出版社。

#### 英文

- Cheung, Hung-Nin Samuel. (2006) One Language, Two Systems: A Phonological Study of Two Cantonese Language Manuals of 1888. *Bulletin of Chinese Linguistics* 1.1: 171-199.
- Parker, Edward Harper. (1880) Foochow Syllabary. *The China Review* 9(2): 63-82.
- Takekoshi, Minako. (2017) (forthcoming) Cantonese as Learned by Missionaries in the 19th Century: Language Variation in *Easy Lessons in Chinese*. *Current Research in Chinese Linguistics*.
- Yiu, Carine. (2012) Tonal Adaptation of English Loanwords in Early Cantonese. *Journal of Chinese Linguistics* 40-1: 190-215.
- Yue Hashimoto, Anne O. (1972) *Phonology of Cantonese*. Cambridge: Cambridge University Press.

#### 日文

- 高田時雄 (2000) 「近代粵語の母音推移と表記」『東方學報』72: 740-754.
- 竹越美奈子 (2013) 「早期粵語資料の文体考——ウイリアムス『拾級大成』における文末助詞“呢”の用法を中心に——」『太田齋・古屋昭弘兩教授還曆記念中國語學論集』東京：好文出版pp. 332-341.
- 竹越美奈子 (2015) 「早期粵語口語中的語體」『南開語言學刊』2: 86-95.

表：近代粵語遇效攝一等字の変遷（竹越美奈子）

表 1<sup>35</sup> 現代広州語[u][ou]韻の中古来源<sup>36</sup>

韻	攝	等呼	韻目	声母	例外字 <sup>37</sup>
u	遇	合一	模	見溪曉匣影	“富婦副負”（流開三）“娶芋”（遇合三清雲）
		合三	虞	非敷奉	
ou		合一	模	幫滂並明端透定泥來精清心	“甫脯鬚數”（遇合三）“盧”（遇合三魚）“母戊拇”（流開一）
		合三	虞	微	
	效	開一	豪	全声母（除“考烤靠”）	

表 2 『分韻』第12韻字の現代広州音

漢字（声母）	中古来源			現代広州韻
	攝	等呼	韻目	
孤烏胡古故惡戸祐（見系）	遇	合一	模	u
夫符父（非組）		合三	虞	
婦富（非組）[例外字]	流	開三	尤	
鋪蒲補普布舖歩哺（幫系）塗賭土肚蠹吐度（端組）怒盧奴魯路（泥組）蘇粗租祖徂柞素（精組）	遇	合一	模	ou
無務（微母）		合三	虞	
甫（非）数上数去（審）[例外字]	流	開一	侯	
母（明）[例外字]		開一	豪	
抱耄（幫系）刀滔（端組）老（泥組）草嫂竈躁（精組）高蒿熬豪稿襖好上好去奥告号傲熬（見系）	效	開一	豪	
獠	不詳			

<sup>35</sup> 黄錫凌（1941）に基づき、張洪年（1972）を参考に作成。

<sup>36</sup> 少数の例外字については記載を省略したものがある。

<sup>37</sup> 例外字中，“芋”[wu]“娶”（白話音[tshou]）“鬚”[sou]はいわゆる「特字」。〔郭必之 2004参照〕また“盧”[lou]は“盧炉蘆”の影響を受けた類推（analogical reading）である。（Yue 1972: 649）

表 3 現代広州語[u]韻字 (19世紀広州語資料)

文献\中古来源	遇合一					遇合三			例外字
	見	溪	曉	匣	影	非	敷	奉	
Morrison (1828)	u/ɔ <sup>1)</sup>	u/ou <sup>2)</sup>	u	u	u/ou/ɔ <sup>3)</sup>	u	u	u	u
Bridgman (1841)	u	u	u	u	u	u	-	u/ou <sup>4)</sup>	u
Williams (1842)	u	u	u	u	u	u	u	u	u
Bonney (1854)	u	u	u	u	u	u	-	u	u
Williams (1856)	u	u	u	u	u	u	u	u	u
Devan (1858)	u	u	-	u	u	u	u	u	u
Chalmers (1859)	u	u	u	u	u	u	u	u	u
Chalmers (1878)	u	u	u	u	u	u	u	u	u
Ball (1883)	u	u	u	u	u/ɔ <sup>5)</sup>	u	-	u	u
S & L (1888)	u	u	u	u	u	u	-	u	-

表 4 現代広州語[u]韻字 (19世紀下位方言資料)

文献 (地点) \中古来源	遇合一					遇合三			例外字
	見	溪	曉	匣	影	非	敷	奉	
Don (1883/4) (新寧)	u	u	-	-	u	-	-	-	u
Ball (1889) (新会)	u	-	-	-	u	-	-	u	-
Ball (1890) (東莞)	u	-	-	u	u	u	-	-	u
Ball (1896) (香山)	u	u	-	u	u	u	-	-	-
Ball (1900) (順德)	u	u	u	u	u	u	-	-	u

表 5 現代広州語[ou]韻字 (遇攝) (19世紀広州語資料)

文献\中古音	遇合一				遇合三	例外字
	幫滂並明	端透定	泥来	精清心	微	
Morrison (1828)	u/ou/ui	u/ou/ɔ	u/ou	u/ou/ɔ	ou	u/ou/ui
Bridgman (1841)	ou/ɔ	ou	u/ou	u/ou	u/ou	u/ou/y
Williams (1842)	ou	ou	u/ou	u/ou	u/ou	u/ou
Bonney (1854)	u/ou	u/ou	u/au	u/ou	ou	u
Williams (1856)	ou	ou	ou	u/ou	ou	u/ou
Devan (1858)	u/ou	ou	u/ou	u/ou	ou	ou
Chalmers (1859)	u/ou	u/ou	ou	u/ou	u	u/ou
Chalmers (1878)	u/ou	u/ou	u/ou	u/ou	u/ou	u/ou
Ball (1883)	ou	ou	ou	ou	ou	ou
S & Lee (1888)	u/ou	u	u	u/ou	u/ou	u/ɔ

表 5-1 現代広州語 [ou] 韻字 (遇攝) (Morrison 1828)

Morrison (1828)	[u]	[ou]	[その他の発音]
	[幫] 布	補布	
	[滂] 舖	舖普舖	
	[並]	蒲菩葡部簿步哺	菩 [ui]
	[明]	模暮慕慕	
	[端] 都	都賭肚蠹	肚 [ɔ]
	[透]	土吐兔	
	[定] 度	徒屠途塗凶度渡	
	[泥]	奴弩怒	
	[来] 路	爐蘆魯櫓擄路賂露鱸鷺	
	[精]	租粗做	
	[清]	醋	
	[心] 訴	蘇素訴	訴 [ɔ]
	[微] 務	無誣武舞侮務霧	
(例外字)	鬚数母	数母鬚	鬚 [ui]

表 5-2 現代広州語 [ou] 韻字 (遇攝) (Bridgman 1841)

Bridgman (1841)	[u]	[ou]	[その他の発音]
遇合一	[幫]	補譜布	
	[滂]	舖舖普	舖 [ɔ] <sup>38</sup>
	[並]	部步捕葡簿哺	
	[明]	模墓	
	[端]	都賭妬肚	
	[透]	土	
	[定]	凶杜度渡	
	[泥] 奴	奴怒努	
	[来] 魯	炉路露	
	[精]	祖做	
	[清]	粗	
	[心] 蘇素		
遇合三	[微] 無務	無務武	
例外字	母	鬚数母甫	鬚 [ɤ]

<sup>38</sup> “舖”は[ou/ɔ] 2種類の表記があるが、同書の発音表記法はɔ[ou], ɔ[ɔ]なので、ɔ[ɔ]は誤植の可能性もある。

表 5-3 現代広州語 [ou] 韻字 (遇攝) (Williams 1842)

Williams (1842)	[u]	[ou]	[その他の発音]
遇合一	[幫]	補布	
	[滂]	鋪鋪	
	[並]	蒲部步簿	
	[明]	墓	
	[端]	都賭	
	[透]	土兔	
	[定]	徒途図度渡杜	
	[泥]	奴努怒	
	[来] 路盧魯	路潞	
	[精]	祖倣	
	[清]	粗	
	[心] 蘇	素	
遇合三	[微] 無務	無武霧舞	
例外字	母	数母	

表 5-4 現代広州語 [ou] 韻字 (遇攝) (Bonney 1854)

Bonney (1854)	[u]	[ou]	[その他の発音]
遇合一	[幫]	補布	
	[滂]	鋪鋪普	
	[並] 菩部葡	部步	
	[明]	墓	
	[端] 都		
	[透]	土肚吐	
	[定]	徒図渡	
	[泥] 奴		怒 [au]
	[来] 路炉露櫓		
	[精] 倣	祖	
	[清]	粗醋	
	[心] 穌		
遇合三	[微]	務無武舞	
例外字	数鬚母		

表 5-5 現代広州語 [ou] 韻字 (遇攝) (Williams 1856)

Williams (1856) <sup>39</sup>	[u]	[ou]	[その他の発音]
遇合一	[幫]	補布譜	
	[滂]	浦鋪舖普	
	[並]	哺簿捕蒲菩部葡歩	
	[明]	模摹暮募慕	
	[端]	堵都賭蠹妒	
	[透]	土吐兔	
	[定]	徒凶渡鍍杜塗屠肚	
	[泥]	奴努怒	
	[来]	盧路炉蘆魯虜賂露鷺櫓	
	[精]	做祖組	
	[清]	粗措錯醋	
	[心]	穌蘇酥訴素	塑
遇合三	[微]	務無武巫誣毋撫廡侮鵠舞霧	
例外字	脯甫 <sup>40</sup>	数鬚母戊	

表 5-6 現代広州語 [ou] 韻字 (遇攝) (Devan 1858)

Devan (1858)	[u]	[ou]	[その他の発音]
遇合一	[幫] 布	補布圃	
	[滂]	舖	普 [ɔ]
	[並] 菩	簿菩部葡蒲	
	[明]	墓	
	[端]	賭都妒	
	[透]	吐	
	[定]	度徒凶渡肚	
	[泥]	奴	
	[来] 路	炉蘆露路	
	[精]	做祖	
	[清]	粗醋	
	[心] 蘇	訴	
遇合三	[微]	無武舞霧毋	
例外字		数鬚母	

<sup>39</sup> Williams (1856) は字典なので収録字が非常に多い。一部の非常用字は割愛した。

<sup>40</sup> “脯甫[fu]”。両字は現代広州語でも“脯[fu/p<sup>h</sup>ou]”、“甫[fu]”。いずれも文読である (Yue 1972: 414, 425)。

表 5-7 現代広州語 [ou] 韻字 (遇攝) (Chalmers 1859, 1878)

Chalmers (1859)		Chalmers (1878)		
[u]	[ou]	[u]	[ou]	
遇合一 [幫]	補布佈	補布譜佈	布	補布譜佈
[滂]	鋪普舖		鋪	鋪舖普
[並]	蒲菩部步葡	捕哺菩	蒲菩部步葡	捕部簿菩蒲步葡
[明]	墓模暮慕		墓模暮慕	
[端]	都	賭妒	都	賭妒
[透]		土吐兔		土吐兔
[定]		徒凶渡屠塗肚度鍍		徒凶渡屠塗肚度鍍杜
[泥]		怒奴		怒奴
[來]		路魯垆露櫓蘆鷺賂潞	蘆	路魯垆露櫓蘆鷺賂虜鷗
[精]		做祖租		做祖租
[清]		粗醋		粗
[心]	素穌蘇	訴蘇	素穌穌	訴蘇素
遇合三 [微]	務無舞霧武鶻		武舞鶻霧	務無霧
例外字	母脯	數鬚母	母	數鬚母

表 5-8 現代広州語 [ou] 韻字 (遇攝) (Chalmers 1891)

Chalmers (1891)	[u]	[ou]
遇合一 [幫]		補佈布譜
[滂]	鋪舖	鋪舖普
[並]	蒲部菩葡步	部捕菩蒲步葡
[明]	慕模墓慕	慕
[端]	都	賭蠹妒
[透]		土吐
[定]		徒凶杜肚塗屠度鍍度
[泥]		怒奴
[來]	蘆	路蘆魯鷺賂鷗露垆
[精]		做祖租
[清]		粗
[心]	穌	蘇素訴
遇合三 [微]	無武舞霧務鶻	無務霧
例外字	母鶻	數鬚母甫

表 5-9 現代広州語 [ou] 韻字 (遇攝) (Chalmers 1859, 1878, 1891) の修訂状況

漢字	語彙	英語	1859	1878	1891
都	都	also	[u]	[u]	[u]
蘆	葫蘆 (3例)	gourd	[ou]	[u]	[u]
	蘆荃	aloes	[ou]	[ou]	[ou]
	蘆葦	reed	[ou]	[ou]	[ou]
	蘆荻	reed	—	[ou]	[ou]
	藜蘆	hellebore	[ou]	[ou]	[ou]
穌	耶穌 (5例)	jesus	[u]	[u]	[u]
	紫穌	basil	—	[u]	[u]
蘇	蘇木	sapan wood	[u]	[u]	[u]
	𠵼蘇仔 (2例)	baby, infant	—	[ou]	[ou]
訴	解訴	plea	[ou]	[ou]	[ou]
	告訴	protest	—	[ou]	[ou]
素	朴素	plain	[u]	[u]	[ou]

表 5-10 遇攝唇音声母字 (Chalmers 1859, 1878, 1891) の修訂状況

	1859	1878	1891
[幫] 賠補, 補償, 織補, 補奔, 釘補奔, 補綴, 充補, 補益, 爛布, 白洋布, 印花布, 布施, 布, 布簾, 袈裟布, 帆布, 拂塵布, 毛布, 麻布 [石扇] 布具, 一机布, 棋盤布, 佈散 [滂] 舖家, 普天下 [並] 蒲翅, 蒲草, 菩提樹, 珠菩提, 葡提子, 部, 部書, 步涉, 步頭 (2例) [微] 專務, 無, 無風無浪, 無定心, 無定, 無定准, 無小心, 無顧, 無胆, 無真誠, 無顧忌, 無窮 (2例), 無常, 無分彼此, 無可怨, 無窮尽, 無窮無限, 無罪, 無厭, 無尽, 無節, 無定性, 無花果, 無拘管, 無根無本 (2例), 無知, 無見識, 無形無像, 無礼 (2例), 無双, 無知覺, 無主意, 有名無實, 無物, 無所不能, 無所不在, 無所不知, 無限, 蒙霧, 迷霧 [例外] 母, 雲母	[u]	[ou]	
[幫] 裡布, 絨布, 布拂, 紫花布, 赤布, 布仔, 粗麻布 [並] 菩薩, 步師, 步行	[u]		[ou]
[滂] 鋪頭, 床鋪, 鋪盖 [並] 蒲公英, 閔部, 菩薩, 菩提子, 葡萄青, 葡萄果, 針步 [明] 模式 (2例), 朝三暮四, 墓志, 墳墓 (2例), 冢墓, 墓碑, 恋墓 (微) 武 (2例), 武夫, 武彝茶, 文武, 鸚鵡, 白鸚鵡, 鸚鵡綠, 舞, 鼓舞, 戲舞, 雲霧 (2例), 烟霧, 霞霧 [例外] 姑母 (2例), 姨母 (2例), 狗母, 牛母, 羊母, 鷄母, 老母, 母親, 雲母壳, 父母	[u]		

表 5-11 現代広州語 [ou] 韻字 (遇攝) (Ball 1883)

Ball (1883)	[u]	[ou]
遇合一	[幫]	布
	[滂]	鋪
	[並]	部菩
	[明]	
	[端]	都賭
	[透]	土
	[定]	囟渡肚度
	[泥]	
	[來]	路
	[精]	做
	[清]	
	[心]	穌
遇合三	[微]	務無
例外字		母数

表 5-12 現代広州語 [ou] 韻字 (遇攝) (Stedman & Lee 1888)

S & Lee (1888)	[u]	[ou]
遇合一	[幫] 補布	布
	[滂] 鋪	
	[並]	部
	[明] 墓	
	[端] 都	
	[透]	
	[定] 徒渡度	
	[泥]	
	[來] 路炉	
	[精] 做租	租
	[清]	
	[心] 蘇訴	
遇合三	[微] 霧務	霧
例外字	数母	鬚

表 6 現代廣州語[ou]韻字（效攝）（1828-1888）

資料\中古来源	豪韻						
	幫並明	端透定	泥來	精清從心	見疑	曉匣	影
Morrison (1828)	ou	ou	ou/ɔ	ou	ou	ou/ɔ/au	ou
Bridgman (1841)	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou
Williams (1842)	ou	ou	ou	ou	ou	ou/u	-
Bonney (1854)	ou	ou	ou/u	ou/u	ou/u	ou	-
Williams (1856)	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou
Devan (1858)	ou	ou	ou	ou	ou	ou	-
Chalmers (1859)	ou/u	ou	ou	ou	ou	ou	ou
Chalmers (1878)	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou
Ball (1883)	ou	ou	ou	ou	ou	ou	-
S & Lee (1888)	ou	ou	ou	ou	ou	ou	-

表 7-1 現代廣州語[ou]韻字（19世紀粵語下位方言資料）（A類）

資料\中古来源	遇攝					效攝						
	幫	端	泥	精	微	幫	端	泥	精	見	曉	影
Don (1883/4) (新寧)	ou	ou	ou	ou	—	au	au	au	au	au	au	—
Ball (1889) (新會)	ou	ou	ou	ou	—	ou	ou/au	au	—	ou	ou	ou
Ball (1890) (東莞)	—	ou	ou	ou	—	ou	ou	ou	—	ou	ou	ou

表 7-2 現代廣州語[ou]韻字（19世紀粵語下位方言資料）（B類）

資料\中古来源	遇攝					效攝						
	幫	端	泥	精	微	幫	端	泥	精	見	曉	影
Ball (1896) (香山)	u	—	u	u	u	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou
Ball (1900) (順德)	u	u/ou	u	u/ou	—	ou	ou/u	ou/u/au/œ	ou	ou	ou	ou

表 7-3 現代廣州語[ou]韻字（遇攝）（19世紀順德方言）

Ball (1900)	[u]	[ou]
[端]	都堵賭妒蠹	
[透]	土白兔白吐白	土文兔文吐文
[定]	度杜渡鍍囧塗屠徒途肚白	屠肚文
[精]	租祖	做
[清]	粗醋	
[心]	穌	

表 7-4 現代広州語 [ou] 韻字 (效攝) (19世紀順德方言)

Ball (1900)	[u]	[ou]
	[端] 島禱	刀
	[透] 討白	
	[定] 濤逃	
	[來] 牢白	

表 8 遇攝と效攝 (現代粵方言)

表 8-1 遇攝と效攝がともに二重母音 (A類)

	模韻					虞韻					豪韻		
	幫	端	泥	精	微	幫	端	泥	精	見	曉	影	
広州 (市区)	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	
香港 (市区)	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	
澳門 (市区)	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	
番禺 (市橋)	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	
增城 (县城)	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	
仏山 (市区)	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	
宝安 (沙井)	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou/au	ou	ou	
清遠	ou	ou	ou	ou	ou	au	au	au	au	au	au	au	
羅定	u/ou	ou	ou	ou	u/ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	
斗門 (斗門鎮)	ou	ou	ou	ou	ou/ui	ou/au	ou	ou	ou	ou/au	ou	ou	
順德 (大良)	ou	ou	ou	ɔ/ou	ou	ɔ/ou	ɔ/ou	ɔ/ou	ɔ	ɔ/ou	ɔ/ou	ɔ	
南海 (沙頭)	u/ou	ɔ/ou	ou	ou	ou	ɔ/ou	ou	ɔ/ou	ɔ/ou	ɔ/ou	ɔ/ou	ɔ	
三水 (西南)	u/ou	ou	ou	ou	au/ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	
英德 (浚洗)	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	au/ou	ou	au/ou	ou	ou	
樂昌	ou	ou	ou	ou	ou	au/ou	ou	ou	ou	au/ou	ou	ou	
韶關	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	au/ou	au/ou	au/ou	ou	au/ou	
曲江 (馬壩)	ou	ou	ou	æy/ou	ou	ou	ou	ou	au/ou	au/ou	ou	ou	
仁化	ou	ou	ou/ɔk	ou	ou	ou	ou	ou	ou	au/ou	ou	ou	
肇慶 (高要)	ou	ou	ou	æy/ou	oi/ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	
雲浮 (雲城)	u/ou	ou	ou	æy/ou	u/ou <sup>41</sup>	ou	ou	u/au/ou	ou	ou	ou	ou	
花県 (花山)	ou	ou	ou	ou	ou	ai	au/ou/ui/ou	au	au	au	au	au	
江門 (沙門)	au/ou	ou	ou	ou	ou	au	au/ou	au	au	au	au	au	
懷集	ɔu	ɔu	ɔ/ɔu	ɔu	ɔu	ɔu	ɔu/ɔi	ɔu	ɔu	ɔu	ɔu/ou	ou	
新会 (会城)	uɔ/æu	æu	æu	æu	æu	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	
東莞 (莞城)	u/ɔu/ɔk	ɔu	ɔu/ɔk	æy/ɔu	u/ɔu	u/ɔ/ou/au	ɔ/ɔu	ɔu	ɔu	ɔ/ɔu	ɔu	ɔ	

<sup>41</sup> 雲浮 (雲城) 遇合三微母字は[mou], “舞鶴”は老派[mu], 新派[mou].

表 8-2 模韻が単母音、豪韻が二重母音 (B類)

	模韻					豪韻							
	幫	端	泥	精	微	幫	端	泥	精	見	曉	影	
中山 (石岐)	u	u	u	u	u	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	
德慶	u	u	u	u	u	ou	ou	ou/au	ou	ou	ou	ou	
惠州 (市区)	u	u	u	u	u	au	au	au	au	au	au	au	
深圳 (沙頭角)	u	u	u	u/ɔ	u	u/au	au	au	au	au	au	au	
東莞 (清溪)	u/ɔ	u	u	u/ɔ	u	u/au	au	au	au	au	au	au	
台山 (台城)	u/ɔ	u	u/ɔ	u	u	au	au	au	au	au	au	au	
中山 (南朗合水)	u	u	u	u/ɔ/i	u	u/au	au	au	au	au	au	au	
恩平 (牛江)	u/ɔi	u	u	ɥ	u	au	au	au	au	au	au	au	
仏岡	u	u	u/ɐu/ ɔk	u	u	au	au	au	au	au	au	au	
中山 (隆都) <sup>42</sup>	u/ɐ/uo	u	u	u/ɔ	u/ɐ/ɔ	ɔ/ɐu	ɐu/ou	ɐu	ɐu/ou	au/ou	ou	ou	
香港 (錦田)	ɯ	ɯ	ɯ	ɯ	ɯ	ɯ/əu	əu	ɯ/əu	ɯ/əu	əu	əu	əu	
從化 (城内)	u/ou/ ɔi	u/ou	u	u	u	u/ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	
高明 (明成)	u	u/ou	u/ɐu/ ou	ou	u/ou/ ui	ou	ou	ou	ou	ou	o/ou	ou	
斗門 (上横水上話)	u/ɔ	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou/au	ou	
新興	u/ɔ	u/ɔk	u	y/u <sup>43</sup>	u/ɔi	ɐu	ɐu	ɐu/au	ɐu	ɐu	ɐu	ɐu	
珠海	u/ou	u/ou	u/ou	u/ou	u/ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	ou	
四会	u/ɐu	u/ɐu/ ou	u/ɐu/ ou	u/ɐu	u/ɐu/ ou	ou	ou	ou/au	ou	ou	ou	ou	

表 8-3 遇攝と效攝がともに単母音 (C類)

	模韻					豪韻							
	幫	端	泥	精	微	幫	端	泥	精	見	曉	影	
郁南	u	u	u	u	u	u	u	u	u	u	u	u	
封開	u	u/ɔ	u	u	u	ɔ	ɔ	ɔ/au	ɔ	ɔ	ɔ	ɔ	
開平	u	u	u	u	u	ɔ/au	ɔ	ɔ	ɔ	ɔ	ɔ	ɔ	
從化	u	u	u	u/ɔ	u	u/ɔ/au	ɔ	ɔ	ɔ/au	ɔ/au	ɔ/au	ɔ/ɔi	
連山 <sup>44</sup>	u/ui/ ok	u/y	u	u/y	u/ui	o	o/au	o/au	o	o	o	o	

<sup>42</sup> 中山 (隆都) 效攝各組表中に示した以外に白話層の発音が多くある。

<sup>43</sup> 老派[y], 新派[u]。

<sup>44</sup> [-ui]は“菩薩”の“菩”[pu] 1例のみ。

表 8-4 遇攝が二重母音で效攝が単母音 (D類)

	模韻					豪韻						
	幫	端	泥	精	微	幫	端	泥	精	見	曉	影
鶴山	Au/ɔu	Au/ɔu/ε	Au/ε	Au/y	Au/ε	Au/ɔu/ε	Au/ε	Au/ε	ε	ε	ε	ε
陽山	u	ɐu	o/ɐu/œk	ɔ/ɐu/ɔy	u/o	u/o/au	o	o	o	o/au	o	o
連県	u/ɔ/ɔk/œk	ɐu	ɐu/œk	ɔ/ɐu/œk	u/o	o/ɐu/au	o	o	o/au	o	o	o
広寧	u/ɐu	u/ɐu/ɔu	u/ɐu/ɔu	u/ɐu/œk	u/ɐu	o	o	o/oi	o	o	o	o

受理日 平成29年 9 月14日